

須崎高校からいただいた主なご意見に対する回答

(単独での存続)

Q 1 本校を単独で存続することはできないのか。

A 須崎高校は、須崎市はもとより近隣町村の方々の熱意と支援により、昭和 21 年に開校した、須崎中学校、須崎高等女学校に端を発し、高吾地区の進学校として今年度で創立 69 年周年を迎える伝統のある学校です。これまで学校を支えていただいております同窓会や保護者の皆様が本校に対する熱い思いから単独校での存続を求められるお気持ちは私どもも十分に理解しております。

しかしながら、高吾地域の生徒数の減少が続く中、須崎高校は、10 年後の平成 34 年度には生徒数では 2 学級規模の学校になる一方で、須崎工業高校も同様に 10 年後には 2 学級規模の生徒数になることが推計されております。

両校とも、このまま、生徒数や教員数が減りますと、習熟度別授業によるきめ細やかな学習指導、教科等の選択幅の確保、学校行事や部活動などの社会性を育む集団活動の場の保障、学校内の研修を通じた教員の教科指導力の向上など、高校教育の質への影響が危惧されます。

そのため、より良い教育環境を整備することができる適正規模の 1 学年 4～8 学級規模の学校を維持することが重要であると考えています。

例えば、1 学年 2 学級規模の学校になりますと、教員数が少なくなることから、普通教科の教員は各教科 1～2 名の配置になりますし、習熟度別授業に対する教員の配置は現在の 3 分の 1 程度になり、きめ細かな学習支援が困難になります。また、部活動についても多人数の団体競技は、例えば、野球部かサッカー部のどちらかしかない状況となるなど、生徒の選択肢の幅を狭めていく状況になります。

また、須崎高校は、新莊川の河口付近に位置しており、南海トラフ地震による津波被害が危惧されます。津波浸水深の最大想定は 7m となっており、地震発生後、28 分で 30cm 高の津波が到達することが想定されています。現在、校舎の耐震化工事、避難場所や避難路の整備を行うなど、震災に対して、命を守る備えは、しっかりとできていますと考えていますが、校舎等への甚大な被害が想定されることから、津波被害から確実に生徒を守ることや被災後の学校の早期再開を考えると、須崎高校の高台への移転が必要だと考えております。

こうしたことを踏まえ、今回のたたき台でお示しさせていただきました須崎工業高校との統合により、教育環境の充実とともに震災に強い教育環境を整備することで、1 学年 6 学級規模の高吾地域の拠点校としていきたいと考えております。進学に関する須崎高校の取組と就職に強い須崎工業高校の取組を、さらに発展させ、両校の強みを生かした魅力ある学校づくりを推進することで、地域内の中学生や保護者の皆様からは是非行きたいと思われる学校としていきたいと考えています。

現在の須崎高校に強い思いを持っておられる生徒や関係者の皆様方に、こうした統合案をお示しすることは、大変心苦しく思っておりますが、須崎市を中心とする高吾地域の将来の子どもたちが、それぞれの目標に向かって挑戦していくことができる充実した教育環境を整備していきたいと考えておりますので、何卒ご理解をよろしくお願いいたします。

(南海トラフ地震)

Q 2 南海トラフ地震への対策は、須崎高校においても取り組まれていると聞いているが、その理由で統合する必要がないのではないか。

A 須崎高校は、新莊川の河口付近に位置しており南海トラフ地震による津波被害が危惧されます。津波浸水深の最大想定は7mとなっており、地震発生後、28分で30cm高の津波が到達することが想定されています。現在、校舎の耐震化工事、避難場所や避難路の整備を行うとともに、地域と連携を深めながら、避難訓練を実施するなど、震災に対して、命を守る備えは、しっかりとできていますと考えていますが、校舎への甚大な被害が想定されますことから、津波被害から、より確実に生徒を守ることや被災後の学校の早期再開のための手だても考える必要があります。須崎高校の大切な生徒の皆様の命をお預かりしている教育委員会としては、将来の子どもたちが安全安心に学ぶことができる環境を提供することを一番に考えて、最大限のリスクを想定し、必要な対策を講じることが必要だと考えております。

今回の統合案は、生徒数が減少する中で、須崎高等学校と須崎工業高等学校が統合することで、この地域における拠点となる学校をつくり、大学進学や地域を支える人材の育成などの地域の期待に応える学校づくりを推進するとともに、南海トラフ地震への対応として、震災に強く、地域の防災拠点としての活用も見据えた設備を備えた、将来にわたって安心して学ぶことができる教育環境の整備を進めていきたいと考えたものです。

(高吾地域の教育)

Q 3 統合後の新しい学校として、どのような学校をつくりたいと考えているのか。

A 統合後の新しい高等学校は、全日制の課程で普通科と工業科を併置する1学年6学級規模、定時制の課程1学年1学級の学校を計画しております。この新しい高等学校は、進学指導の実績がある須崎高校と、就職に強い須崎工業高校のそれぞれの強みを生かし、さらに発展させることで、高吾地域の拠点校として、地域の皆様のご期待に応えられる学校としてまいります。統合によって、適正規模を維持することにより、生徒の個性や多様な進路希望などに対応した習熟度別の学習指導や総合選択制を取り入れた教育課程の編成など、きめ細やかな学習指導を行うことができますし、団体競技の運動部等も相当数置くことで、部活動や特別活動等においても生徒同士が切磋琢磨し、活気あふれる学校づくりをすることができます。

まず教育の充実という点では、普通科では、高知市内の高等学校に進学しなくても国公立大学等に進学できる体制をつくるとともに、生徒個々に応じたきめ細やかな学習指導により、進学から就職までの多様な進路希望に対応してまいります。具体的には、1年次の習熟度別授業を現在の数学と英語に加えて、国語も実施し、2年次からは難関大学への進学も見据えた少人数クラスを新たに設け、きめ細やかな進学指導ができる体制を検討しています。

工業科では、幅広い専門的な知識・技術を学びながら、専門分野を深く学ぶ体制を整えるとともに、これまで培ってきました、規則正しく礼節を重んじた生活指導を継続し、就労観や職業観を育成することで就職率100%を維持できるよう、就職支援体制を強化してまいります。また、1年次において、国語、数学、英語の3教科を中心に習熟度別授業やチームティーチングを継続して基礎学力の定着を図るとともに、新たに大学進学希望者が普通科の授業を選択できる仕組みを検討しています。

加えて、生徒が多人数いることで、体育祭などの全校や学年で取り組む特別活動が活性化されます。また、両校の部活動を合わせることで、部活動の充実を図ることができますので、野球部などをはじめ多くの部活動が全国大会で活躍することを目指したいと考えております。さらに、防災教育での地域との連携や地域おこし活動等を充実させることができることから、より活気ある学校づくりができると考えています。

また、定時制では、引き続き、地域における学びのセーフティーネットの機能を果たしてまいります。

こうした学校づくりに向けたハード面の整備につきましては、移転先となります須崎工業高校の校舎の増改築や設備の更新、グラウンドの拡張などを行うとともに、津波などの災害時には地域の避難路としても活用できる通学路の整備を行うことを考えております。

これまでの両校の取組を継承し、さらに発展させることで、地域の拠点校として特色ある学校づくりを推進し、地域内の中学生や保護者の皆様から是非行きたいと思われる学校として、また、まち全体の活力を高めていく拠点として、地域の皆様とともに、統合後の新しい高等学校を育ててまいりたいと考えております。

(小中学校の保護者への説明)

Q 4 将来、統合後の新しい高校へ進学する子どもたちの保護者である、現在の小中学生の保護者への説明会をもってほしい。

A ご意見のとおり、将来、統合後の新しい高校へ進学する子どもたちの保護者の皆様に、県立高等学校再編振興計画のたたき台について、ご説明させていただき、その内容についてご理解いただくことは、たいへん大切なことと考えております。

まずは、平成 26 年 7 月 10 日(※)に、須崎市、中土佐町、津野町の小学校、中学校の保護者の皆様を対象に須崎市総合保健福祉センターにおいて、須崎高校と須崎工業高校の統合(案)の説明会を開催いたします。(※台風接近のため、平成 26 年 7 月 18 日に変更して開催予定)

今後も、高吾地域のできるだけ多くの皆様にご理解をいただけるよう丁寧な説明に努めてまいります。

(大学進学に向けた指導の充実)

Q 5 須崎高校は大学進学で実績をあげてきた。統合後の新しい高校では、特進コースなどを設定し、高知市内の高校に進学しなくても難関大学への進学が可能となるような体制を考えて、これまでの実績が充実するような取組を進めてほしい。

A 統合後の新しい高校では、須崎高校でこれまで培われた大学進学に向けた取組を充実させたいと考えております。

例えば、統合後の普通科では、1年次の習熟度別授業を現在の数学と英語に加えて、国語も実施し、2年次からは難関大学への進学も見据えた少人数クラスを新たに設け、きめ細やかな進学指導ができる体制を検討しています。

さらに、工業科の国公立大学進学希望者が、普通科の理数系科目を選択できるカリキュラムを編成し、普通科と工業科の生徒がお互いに切磋琢磨しながら進路を実現できる環境整備も考えております。